



2年生 修学旅行



11月24日(木)から11月27日(日)の計4日間、加悦谷学舎と合同で、北九州方面へ修学旅行に行きました。

1日目は長崎のハウステンボスに向かい、アトラクションに乗ったり、オランダの街並みを再現したきれいな風景やライトアップされた夜景を見たりするなどして、広いパーク内を時間いっぱいまで楽しみました。2日目は午前中に長崎平和公園とその周辺で、平和について学習した後、午後からは長崎市内で班別研修を行いました。また、夜には加悦谷学舎との合同レクリエーションも行い、学舎を超えた交流に大いに盛り上がりました。3日目は各クラスで定めた経路で長崎のホテルから福岡を目指し、太宰府天満宮や福岡マリノアシティなどをめぐりながらクラス内の交流を深めました。最終日となる4日目は午前中のみ活動でしたが、福岡駅を起点とし、班別で研修を行いました。

九州地方に初めて訪れる生徒も多く、九州の歴史、文化や雰囲気を楽しんでいる様子が4日間で多く見られました。その一方で、2日目に訪れた長崎平和公園での長崎平和資料館をはじめ、バス

ガイドの方による戦争当時のお話や平和公園での黙祷・献花を通じて、今ある平和はこのような歴史の上に成り立っているのだと痛感している様子でした。

今年、修学旅行に行った高校2年生は中学校3年生進級時に新型コロナウイルス感染症が流行し、学校でも多くの行事が縮小・延期になったり、場合によっては中止となったりと、たくさんの悔しい思いを経験している学年でした。そのような経緯から、今回の修学旅行を楽しみにする声も大きく、帰路につく時には、非常に満足した表情が多く見られました。今回の経験を活かし、これからのウィズコロナの時代をたくましく生きていってほしいと思います。

「旅行前にクラス・学年・学舎を超えて、どうすれば自分たちが満足できる修学旅行を創り上げることができるのか事前にたくさん話し合いました。その甲斐もあり、多くの制限がある中でしたが常に笑顔の絶えない最高の旅行をすることができました。先生をはじめとする多くの方々の協力に感謝し、これからは自分の進路実現に向け、旅行で得たことを活かして頑張っていきたいと思います。」

修学旅行委員長 折戸登馬 (HR24)



1年生 総合的な探究の時間 最終報告会

12月15日（木）、Safari（総合的な探究の時間）において、普通科1年生がこれまで取り組んできた探究活動についての報告会を行いました。1年生は1学期からさまざまなワークショップを経験したり、グループでディスカッションを重ねたりすることで、地域の課題について深く考えてきました。今回の報告会では自分たちなりの方法でその解決策を考えて、発表を行いました。どのグループも地域が抱える課題に真摯に向き合っており、中には地元だからこそ知っている地域の魅力を活かしたスタンプラリーを考案し、そのスタンプをデザインしたり、海外の事例を参考にして宮津のマツを野菜の栽培に有効活用したりするといった独創的な解決策を考えているグループも見られました。外部講師からの講評では、「地域の課題について高校生の視点で捉え、具体的な方策を提案しているグループが多く、実現できれば非常に良い取組になる期待を強く感じた。ぜひ、2年生の総合的な探究の時間でもこの経験を活かして良い探究をしてほしい」という評価をいただき、生徒も充実感や達成感を得たようでした。

1年間という長い時間をかけて、1つのテーマを自分たちの力で試行錯誤しながら深めていくことは決して容易なことではありません。不安を抱えながらも、テーマについて一生懸命に取り組む中で、新たな発見をしたり、自分なりの答えを導き出したりすることはこれからの時代を力強く生き抜いていくための土台となっていきます。この経験を活かして、2年生の探究活動でもさまざまなことに挑戦してほしいと思います。



主権者教育模擬授業

1月20日（金）、2年生の岩吹壮馬さんと神谷琳さんの2名がSafari（総合的な探究の時間）における取組として、高校生を対象にした主権者教育についての模擬授業を行いました。総合的な探究の時間のテーマ設定において、担当教員と話し合う中で、成人年齢の引き下げを受け、何か自分たちにできることがないかとテーマを決めました。

「テーマが決まらず悩んでいたときに、まもなく18歳になる自分たちに関係のあることをしたいと考えたのがこの主権者教育でした。クラスメイトに協力してもらい模擬投票もすることができたので参加してくれた方たちにはより身近に感じてもらうことができたのではないかと思います。自分たちの関心を持って調べたことを主権者教育を通じて伝えることができ、とても良い経験になりました。」

岩吹壮馬 (HR24)
神谷琳 (HR24)



フィールド探究部 近畿経済産業局長賞 受賞

12月8日（木）、フィールド探究部の大手川の環境保全の取組が経済産業省が主催する「地域創生☆アイデアコンテスト 2022」で近畿経済産業局長賞を受賞しました。惜しくも全国大会の切符を手にすることはできませんでしたが、昨年からの地域とともに継続して進めてきた取組を多くの方々に知ってもらい、認めていただくことになりました。

「このコンテストは企業や学生が地域の課題を見つけ、解決へのアイデアを表彰する内閣府主催の大会です。私たちは宮津を流れる大手川に注目し、官民一体の協働探究プロジェクトを企画しました。表彰式ではギターをつま弾きによるプレゼンをしたり、農業に注目して地域の活性化を図ったりと、個性的な発表も多くみられ、地域に明るい未来を見出そうとする仲間への多くの刺激をもらいました。」

荒木翼 (HR34)



速報 3年生進路情報 & 1、2年生進路 HR

多くの3年生がこれまでの努力の成果を大いに発揮し、それぞれの希望進路を実現しています。国公立大学に14名、私立大学にのべ132名（うち短期大学7名）が合格、公務員・民間企業への就職内定がのべ12名と躍進しています。宮津学舎の最高学年として学校行事や部活動で1、2年生を引っ張りながら、進路実現に向けて着々と努力を積み重ねる姿は後輩達にとって良い目標となっているのではないのでしょうか。

一方、1月14・15日（土・日）には大学入学共通テストが峰山高校で実施され、多くの3年生がこれから始まる私立大学や国公立大学の一般入試に向けて一生懸命に取り組んでいます。3年生のみなさんには志望校合格に向けて最後まで頑張ってもらいたいと思います。

2学期末には1、2年生の進路HRが行われ、国公立大学総合型・学校推薦型選抜で進路実現を果たした3年生のうち6名が宮津学舎の先輩として志望校決定にまつわる経緯や受験当日までの苦悩、1、2年生のうちに取り組んでほしいことなど自らの経験談を踏まえながら話してもらいました。1、2年生も身近な存在でもある先輩の話を興味深く聞いていました。

「苦手意識を持っていた小論文や英語に取り組むことが自分自身の成長につながると考え、学校推薦型を受験する決断をしました。涙を流しながら過去問を解いた日もありましたが、最後まで努力し続けることができたことを今では誇りに思っています。1、2年生の進路HRでは、後悔していることや失敗談なども交え、話をさせてもらいました。それぞれの希望進路や目標に向かって動き出すきっかけになればうれしいです。」

福山心花里 (HR31)

